

てしかが歴史写真館 149



民芸品の行方

ドン、ドン、ドスン、手おので荒々しく大まかな形を作り。
 コレ、コレ、コーン、たたきノミが生き生きとした熊の姿を誕生させます。
 心地よい音が遠くまで響くアイヌ木彫り独特の技法。1965(昭和40)年5月、20歳
 の私が初めて体験した、阿寒アイヌ部落(当時の呼称)の民芸品制作現場です。
 アイヌ彫刻家として、今も先頭を歩いている藤戸竹喜、床ヌグリ、滝口政満、3
 氏の若き姿もありました。大正時代、旭川とハ雲において、既に彫刻技術を持っ
 ていたアイヌの人たちによって作られた木彫りの熊が、アイヌ民芸品の始まりだ
 と伝えられています。

わが町でも、湯治客の増加に伴い温泉町としての拡大が進み、民芸品制作も
 盛んになりました。屈斜路では1933(昭和8)年に制作が始まり、1963(昭和38)
 年には古丹に民芸品共同製作所が作られ、技術の継承も図られました。当時は
 夏だけの観光でしたので、冬季間は制作だけに専念できる、ゆるやかでゆとり
 のある行程でしたが、通年観光になると販売に重きを置くようになり、商品制
 作を卸問屋に頼ることになりました。さらに、道内販売だけにとどまらず「北海
 道物産展」を集客の目玉とする道外大型店にも競って参加。本来は地方の文化
 や物産を紹介する目的の「物産展」ですが、大盛況が次第に「物販店」に流れを変
 え、販売競争や新製品開発競争が激化、参加意義が大きく失われてしまいました。

道内各地、各店でも民芸品の同一化が進み、価格競争が中心になり、わが町で
 も民芸品店の衰退が続いているのが現状です。いつでもどこでも見たり、買え
 たりする時の流れを変えることはできませんが、弟子屈町に来なければ、見ら
 れない、買えないという小さな流れをコツコツと重ねていかなければと思っ
 ています。

サァ!! 新しい熊の木彫り制作に一步を踏み出しますか。

※写真はてしかがの蔵に展示されているニポボ(アイヌの郷土玩具)と木彫りの熊です。

てしかが郷土研究会(充洋)



「達成感とともにゴール！」

弟子屈町未来子ども協議会の主催で今年も行われた「元気い
 っぱい! 僕らの旅! (アドベンチャーツーリング2013)」。
 8月5日に佐呂間町を出発した小学生11人が、自転車で200
 キロを走り抜き、11日にそろって弟子屈町に到着しました。
 (関連記事2~9ページ)

Public relations magazine

2013.9 No.709

てしかが

主な内容

- 元気いっぱい! 僕らの旅! 2
- 防災ニュース 10
- 老人ホームの移転新築に向けて 12
- 大規模建築物などの耐震診断が義務化されました 13
- 弟子屈 2 days えこパスポート 14
- 町税などの納期限/夜間納税窓口開設 26

てしかが 2013.9

毎月1回発行 発行/弟子屈町 編集/まちづくり政策課 ☎482-2913 ㊟482-2696
 〒088-3292 弟子屈町中央2丁目3番1号 URL <http://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/>

12100 この広報紙には再生紙を使っています